



# おいざの町

## 夢に向かって ふみ出す一歩

もっとやさしく もっとかしこく もっとつよく

平成31年度  
四ツ屋小学校

学校報 No.27

令和元年10月11日

### 前期終業式 10/11

今日、前期終業式を行いました。式では、1年生の〇〇〇〇さん、〇〇〇〇さん、〇〇〇〇さん、〇〇〇〇さん、3年生の〇〇〇〇さん、5年生の〇〇〇〇さんが、前期の振り返りを発表してくれました。

ふみ出した一歩 1年

(〇〇〇〇〇〇〇) ぼくのふみだしたいっぱは、さかあがりができるようになったことです。こうちょうせんせいに、しょうじょうをもらってうれしかったです。



(〇〇〇〇〇〇) わたしは、あきたけんみんかをうたえるようになりました。うちのひとみんなとうたえてたのしいです。



(〇〇〇〇〇〇〇) わたしががんばったことは、とうこうはんであるいてがっこうにくることです。七くは、とおいです。こうきもがんばります。



(〇〇〇〇〇〇〇) わたしのふみだしたいっぱは、およげるようになったことです。なつやすみのがっこうのプールはたのしかったです。



前期を振り返って 3年梅組 〇〇〇〇

ぼくが前期にがんばったことは二つあります。

一つ目は、じゅぎょう中に自分から進んで手をあげることです。2年生のときはあまり手をあげられませんでした。だから3年生の前期はがんばろうと決めました。それから、自分からどんどん手をあげられるようになりました。手をあげられるようになってから、べんきょうが楽しくなりました。



二つ目は、体を動かすことです。ぼくは、体をうごかすことがあまり好きではありません。だけど、体力をもっとつけたいと思いをこめ、めあてをたてました。それから、友だちと休み時間に体をうごかしてあそぶようになりました。体をうごかすことが、こんなに楽しいのだと気づきました。だから、後期もがんばってみたいです。

ぼくが、後期がんばりたいことは、テストでまんてんを取ることです。なぜかという、算数のテストは100点だったけど、国語はいつも95点とおしい点数だったからです。だから、一人べんきょうをやるとき、国語もたくさんやって100点まんてんをとりたいたいです。あと、算数のテストもいままでどおり100点をとりたいたいです。

後期のめあてもたっせいできるようにがんばります。

裏面につづく⇒

前期を振り返って 5年梅組 ○○○○

ぼくが前期にがんばったことは三つあります。

一つ目は、チャレンジテストです。チャレンジテストでは、最初は100点をとっていたけれど、後から少しずつ100点をとれなくなりました。だからチャレンジテストで100点をとるために、毎日にじいろノートを2ページ以上やるようにしました。そのときに、国語は横に使ってびっしり書いて、算数では苦手な問題をやったり、よくまちがえたりする問題だけを行うことにしました。すると、結果が良くなるようになりました。自分で進んで毎日ノートに取り組んで良かったと思いました。



二つ目は、保呂羽山宿はく学習です。保呂羽山では、協力しないとできないことがたくさんあります。たとえば、ナイトハイクです。ナイトハイクでは、暗い林の中を歩くとき、先生達がおどろかせてきて、すぐくびっくりしました。それでも、グループのみんなではげまし合って歩き、ゴールすることができました。カヌーでは、こぎ方にコツがあってむずかしかったけれど、先生にコツを教えてもらったらとても上手にこげました。保呂羽山では、めあてであるリーダーカ・絆・生きる力を十分に高められました。

三つ目は、学習発表会です。げき「時をかける少年」で上原役のえんぎをがんばりました。セリフを大きな声でハキハキと言ったり、えんぎをわかりやすく大きくしたりすることを上手にできました。ダンスでは、大きい動きをはずかしがらずにできました。みんなで心を一にしてがんばった発表は、大成功に終わりました。

後期は、最高学年になるための準備期間です。前期でがんばったこの三つを生かしながら、立派な6年生になれるよう色々なことにチャレンジしていきたいです。

6人とも、前期にがんばって一步をふみ出せたことを発表してくれました。この一步が、次の一步へとつながっていきます。発表してくれた6人だけでなく、全校全員が様々な一步をふみ出してくれました。その一部を本日一緒に配付した「おりざの町No.28」に掲載しましたのでご覧ください。

また、本日は通知表も全員に配付しました。一人一人の前期の頑張りや、ふみ出せた一步が記録されております。ご家庭では、通知表から子どもさんの「頑張っている姿」や「可能性」を読み取っていただき、大いに褒めてあげていただきたいと願っております。

## 宿題（全校共通）は「えがお」「あいさつ」！

今年度の児童会テーマは「つなごう元気なあいさつの輪 咲かせようやさしい笑顔の花」です。また、学習発表会では全校の代表として6年生が、「これからも、全校児童160人が力を合わせ、この四ツ屋小学校に、そしてこの地域に もっともっとあいさつの輪を広げ、笑顔の花を増やしていきたい」と話しました。

「笑顔」と「あいさつ」は、子どもたちが将来社会の中で、よりよい人間関係を築いていくために最も大切な力であると考えています。しかし、職員の前期の反省では、「もう少し、笑顔であいさつや受け答えができるようになってほしい」という声が多くありました。

そこで、終業式で右のプロゴルファーの渋野日向子さんの写真を見せて、私（校長）から、『渋野さんのような、「笑顔」「あいさつ」ができるようになること』を全校の子どもたちに宿題として出しました。



短い秋休み期間ですが、是非、ご家庭で「笑顔」や「あいさつ」の宿題に取り組んでいただきたいと思います。16日（水）のあいさつ運動では「あいさつの輪が広がり、笑顔の花が咲く」ことを楽しみにしています。